

■ OnAir 2500 ユーザーレポート

株式会社長崎国際テレビ 様

OnAir 2500 -12



音効室に OnAir 2500 を採用



株式会社長崎国際テレビ
制作・技術局 技術部
白石 健

弊社の音効室は、'91年12月に完成し、各種コメントの録音や音声素材のダビング等の作業を担ってきましたが、別の場所へ移設する必要が出てきたため、それを機に老朽化した機器を更新する計画が持ち上がりました。その中核となるメインミキサーの選定については、

- ①音質が良いこと。
 - ②信頼性が高いこと。
 - ③操作が簡単なこと。
- の3点を重視しました。

①については、最新機種であればメーカー間での極端な差は無いと考え、②と③に重点を置きました。②についても、メーカー間での優劣を決定づけるほどの根拠はなかったのですが、STUDERに関してはこれまでの音効室でも使用していたという親近感もあり、なおかつ

- ・世界中で多くのプロエンジニアに長年支持されてきた老舗ブランドであること。
- ・国内での実績も多数あり、放送業者からの評価もきわめて高いこと。
- ・故障の事例をあまり聞いたことがないこと。
- ・サービス体制が安心できること。

など、評価すべき点が多々あったと思います。③については、今回最も重視したといっても過言ではありません。音効室のユーザーは技術スタッフでない人が大半で、かといってオペレータを常駐させる余裕も無いため、極端な話「誰でも操作できる」というのが必要条件でした。OnAirシリーズは操作パネルの見た目が実にシンプルで、機械が苦手な人でもあまり抵抗なく操作できる点に着目しました。ここまでシンプルな物は他社製品にはあまり無く、今回の機種決定においての決め手になったと言えるでしょう。

移設場所は、かつてニューススタジオとして使用していた場所が空きスペースとなっていたため、そこを活用することにしました。元々スタジオとして作られた部屋なので音響的な環境は申し分なく、コメント録音には最適でした。ただ弊社の場合は人員的な事情から「アナウンサー1人で作業可能なこと」が必須条件だったため、スタジオ内にミキサー卓を設置し、アナウンサー自身が操作して録音作業ができるようにしました。その関係で、他の周辺機器（CDプレーヤー、VTR等）もスタジオ内に設置することにしました。しかしながらその場合、機器の動作音（冷却ファンなど）をマイクで拾う心配があったのですが、指向性の高いマイクを使用することでクリアできました。

また、OnAir 2500は電源投入時の状態を設定

しておくことができるため、これまでのアナログ卓のように、「スイッチやツマミの状態が変えられていたために、操作が分からなくなり技術担当者が呼ばれる」といったことがほとんど無くなりました。これは大いに助かっています。使用する人たちにも、操作がしやすいことや音質が改善されたことなどから概ね好評です。しゃべり手とオペレータ（弊社の場合はほとんどが技術以外のスタッフなのですが）との分業でのコメント録音もあるのですが、前述の通りマイクと機器類が同室にあるため、両者が同じ空間にいる状態での作業となります。そこは従来と勝手に違うので当初は戸惑いもあったようですが、ほどなくして慣れたようで、特段不都合は無いようです。今回は予算の制約もあり、ミキサー以外の周辺機器についてはほとんどを旧音効室からの流用としました。ですが、OnAir 2500はアナログ・デジタル両方の入力に柔軟に対応でき、入力のアサインを自由に変えることができるため、将来的には周辺機器の更新、増設にもフレキシブルに対応できると考えています。

最後に、今回は予算の面でも仕様についてもかなりの無理難題を突きつけたと思いますが、誠実にご対応いただいたスチューダー・ジャパン・ブロードキャスト様には大変感謝しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。